

図画工作、美術

表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成する授業づくり

表現（発想や構想）と鑑賞の指導の関連を図る際には、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考え*（学習の中心）を軸にそれぞれの資質・能力を身に付けられるようにすることが大切です。発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させて学びを積み重ねることが、より豊かで創造的な「思考力、判断力、表現力等」の育成につながります。
（* 図画工作科では、目標（２）「造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え」に当たる。）

【題材例】小学校第3学年「のこぎりザクザク生まれる形」 内容のまとめ「絵や立体、工作」「鑑賞」（全6時間）

学習の中心：形や色などの組合せによる感じを基に自分のイメージをもち、木片の形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。

●のこぎりで切った木片を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付ける。（第3時）

S1：積み重ねたら階段に見えてきた。どうかな。

S2：斜めにずらして積み重ねたんだね。僕の切った木片を組み合わせたら、生き物の口に見えてきた。

T：大きい口で、強そうに見えますね。

◇教師の共感的な声掛けや友達との対話が、児童自身のイメージを明確にすることにつながります。

●木を切って新しい木片を組み合わせるなどしながら、どのように表すかについて考える。（第4時）

S1：木片の向きを変えて積み重ねたら、曲線になってきた。一段一段の大きさを工夫して切ろう。

S2：竜の口に見えてきた。長い体を曲げているようにしたいから、細かい木片をつないでいこう。

◇児童が主体的に表現を試したり、思いに合う材料を選んだりできる学習環境づくりが大切です。

◇製作過程や作品を撮影し蓄積することで、自分の作品の表し方の変化を振り返られるようにします。

発想や構想

学習の中心

鑑賞

創造的な「思考力、判断力、表現力等」の育成

●学習のねらい ◇指導のポイント T：教師

S：造形的な見方・考え方を働かせながら学んでいる児童の姿

●完成した作品を互いに鑑賞し合い、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしたことを話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。（第6時）

S2：竜の口が大きく開くように、薄く切った木片を入れてみたよ。でも、体にいろいろな形の木片を使ったら、でこぼこになってしまったんだ。

S1：色の違うでこぼこがウロコに見えていいと思うよ。
T：なるほど。更に迫力のある竜に見えます。S1さんも、同じく様々な形の木片を使っていますね。

S1：木片の角度を工夫して長い階段にしました。みんなでも楽しめるように展望台もつくりました。

S2：幅広く切った板を展望台にしたんだね。すべり台もあると、みんなでも楽しめるだろうな。

◇話し合う中で、共通点だけでなく異なった捉え方や感じ方を大切に、互いのよさや個性などを認め合うように活動を進めるなどの配慮が必要です。

発想や構想と鑑賞に関する資質・能力の相互の関連を図ることは、表現活動において発想や構想と関連する創造的に表す技能を高めることにもつながります。



表現と鑑賞は密接に関係しており、「A表現」と「B鑑賞」の相互の関連を十分に図り、資質・能力を身に付けられるように指導計画を工夫する必要があります。